

水ってなあに？

対象：0歳児クラス(おひさま組)
山川 結生

水をテーマとした理由と背景

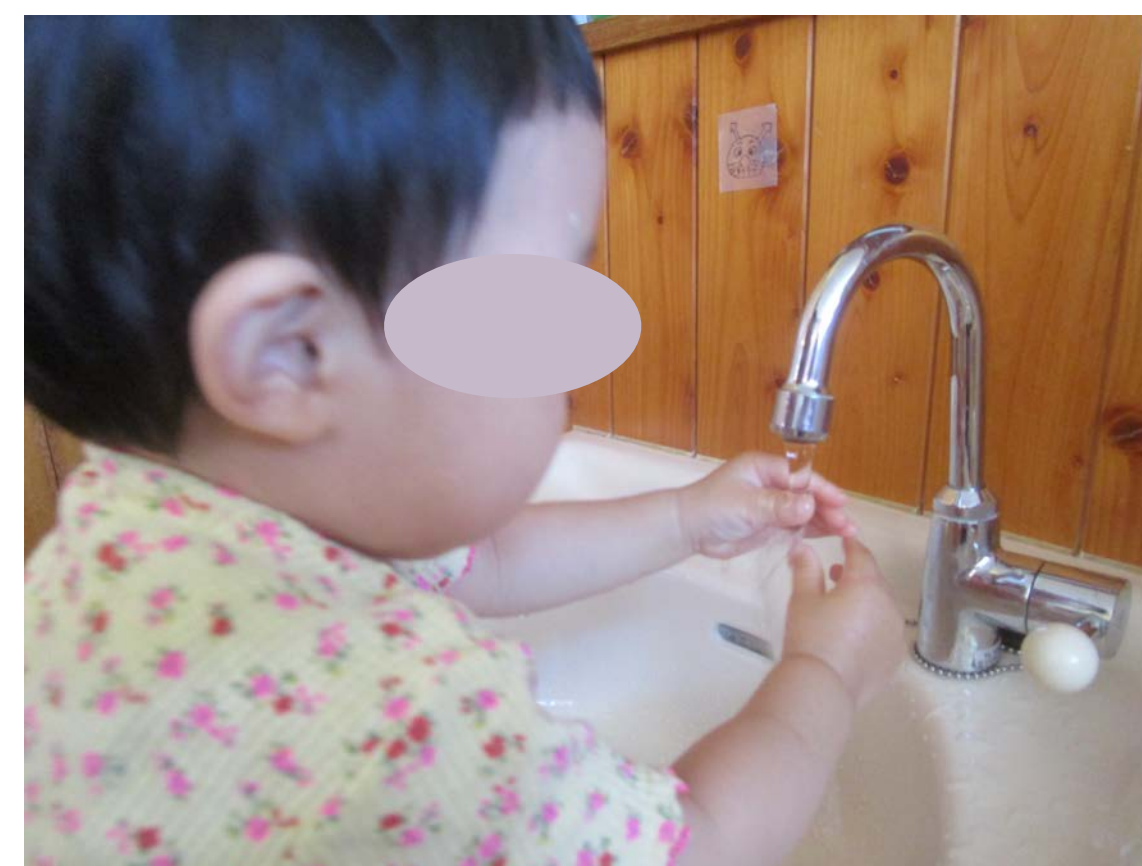
水遊びや手洗い、トイレを流す際など、子どもたちが水に興味を持っている姿が見られる。水は生活に欠かせないものであり、日常の様々な場面で子どもが水に触れる中で、水をどのようなものとして捉えているのか探ると共に、探求活動を通して水への興味がどのように変化していくのか知りたいと考えたため。

きっかけとなった子どもの姿

2024/7/5

水に興味を持ち始めた子どもたち。高月齢の子どもたち数人が、おむつ替えの後に手を洗うと、毎回のように水を指で摘もうとする姿が見られるようになってきた。また、トイレを流す際にも、必ずその様子を覗き込む。

その真剣な表情に、子どもたちは水に触れてどのようなことを考えているのか気になった。



問いを考える

子どもたちが水をどのようなものとして捉えているのか、水に触れることで何を感じているのか、また、水のどのようなところに面白さを感じて興味を持ってるのかという疑問を問いとして設定する。

環境をデザインする

水遊びの際に、タライやシャワー、ジョウロ、ペットボトルなど、様々な形で水に触れたり、水を掬ったり注いだりできる道具を用意する。また、水を使ったセンサリーマットやセンサリーボトルを用意して子どもがいつでも触れられるようにすると共に、手洗いや排泄といった日常の場面でも、子どもじっくりと水に触れたり、向き合える時間をつくっていく。

活動スケジュール

	日付	活動内容	時間	人数
1	2024/7/10	プール遊び	15分程度	3人
2	2024/8/20	水を注ぐ1	15分程度	3人
3	2024/8/21	水を注ぐ1	15分程度	4人
4	2024/8/26	水を注ぐ1、2	15分程度	6人
5	2024/8/28	水を注ぐ1、水を掴む	15分程度	6人
6	2024/9/6	水を注ぐ1	15分程度	6人
7	2024/9/2	水を注ぐ、水を掴む	15分程度	7人
8	2024/9/4	水を掴む	15分程度	3人
9	2024/9/19	自然の中の水「雨」	10分程度	8人
10	2024/9/30	水を貯める、水に浮く	20分程度	5人
11	2024/10/15	水を貯める	30分程度	5人
12	2024/11/29	大きな水溜まり	30分程度	6人
13	2024/12/18	小さな水溜まり	30分程度	3人
14	2025/1/8	水に沈む	30分程度	5人
15	2025/3/5	雪に触れる	45分程度	11人

プール遊びの開始

2024/7/10

●子どもの姿

プール遊びが始まり、水に触れる機会が増えた子どもたち。様々な玩具に触れ、少しずつ水遊びにも慣れてきた。

また、年上の子どもたちの水遊びの様子にも興味がある様子。0歳児クラスの子どもが見ていることに気がついた2歳児クラスの子どもが、窓に水をかけてくれた。いつもとは違った角度から、水をじーっと見つめていた。

低月齢の子どもは、水に入ると泣き出す姿もあったが、お湯を足すことで泣き止む様子もあり、温度の違いを感じ、自分の心地よい温度がわかっているようだった。

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、バケツ、ジョウロ、チェーン、ピッチャー、ペットボトル、水車の玩具、漏斗、ペットボトル、タッパー



水を注ぐ¹

水を注ぐ1

2024/8/20,21,26

●子どもの姿

8/20 ジョウロに水を入れて遊んでいる子ども。ジョウロの水が空になると、水に沈めると下から水が出てくる玩具を使って、水を注いでいく。

8/21 玩具を使って水を注ぐ遊びに夢中になっている様子。次の日にはその注ぎ口はさらに小さく、ペットボトルへ。

8/26 タライ台に小さな穴が空いているのを発見。指を入れたりして確かめると、また玩具を使って穴に水を注いでいく。

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、バケツ、ジョウロ、チェーン、ピッチャー、ペットボトル、水車の玩具、漏斗、ペットボトル、タッパー



水を注ぐ1

2024/8/28

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、バケツ、ジョウロ、チェーン、ピッチャー、ペットボトル、水車の玩具、漏斗、ペットボトル、タッパー

●子どもの姿

この日も、玩具を使ってタライ台の穴に水を注いでいた。そこで、そばにあったピッチャーを使って保育者も水を注いでみる。

すると、保育者の持っていたピッチャーに手を伸ばし、真似して水を注ぎ始める。

水を注ぎ終わると、ピッチャーの中を覗き込み、保育者の方をみて微笑む。



水を注ぐ1

2024/9/6

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、バケツ、ジョウロ、チェーン、ピッチャー、ペットボトル、水車の玩具、漏斗、ペットボトル、タッパー、ビニールプール、お玉

●子どもの姿

ペットボトルにジョウロを使って水を注ごうとする。うまく水が入らないと、周りを見渡し、何か良い道具がないか探していた。

お玉を使って入れようとしたり、他のジョウロに手を伸ばしていた。



水を注ぐ1

●保育者の気づき

- ・ プール遊びが始まってすぐは、様々な道具に触れ、遊び方を模索しているようだったが、回数を重ねることで道具の使い方を知り、自分のやりたいことを試しているように感じた。
- ・ ジョウロからペットボトル、タライ台の穴へと、どんどん注ぎ口が小さくなっていった。水を注ぐという行為に夢中になり、遊びを発展させていく姿に関心した。
- ・ 水を注ぐ道具も、玩具からピッチャー、ジョウロへと変化していった。それぞれの道具の特性や、どのように水が出てくるかを、繰り返し遊ぶ中で覚えていっているのだと感じた。

水を注ぐ²

水を注ぐ 2

2024/8/26

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、バケツ、ジョウロ、チェーン、ピッチャー、ペットボトル、水車の玩具、漏斗、ペットボトル、タッパー

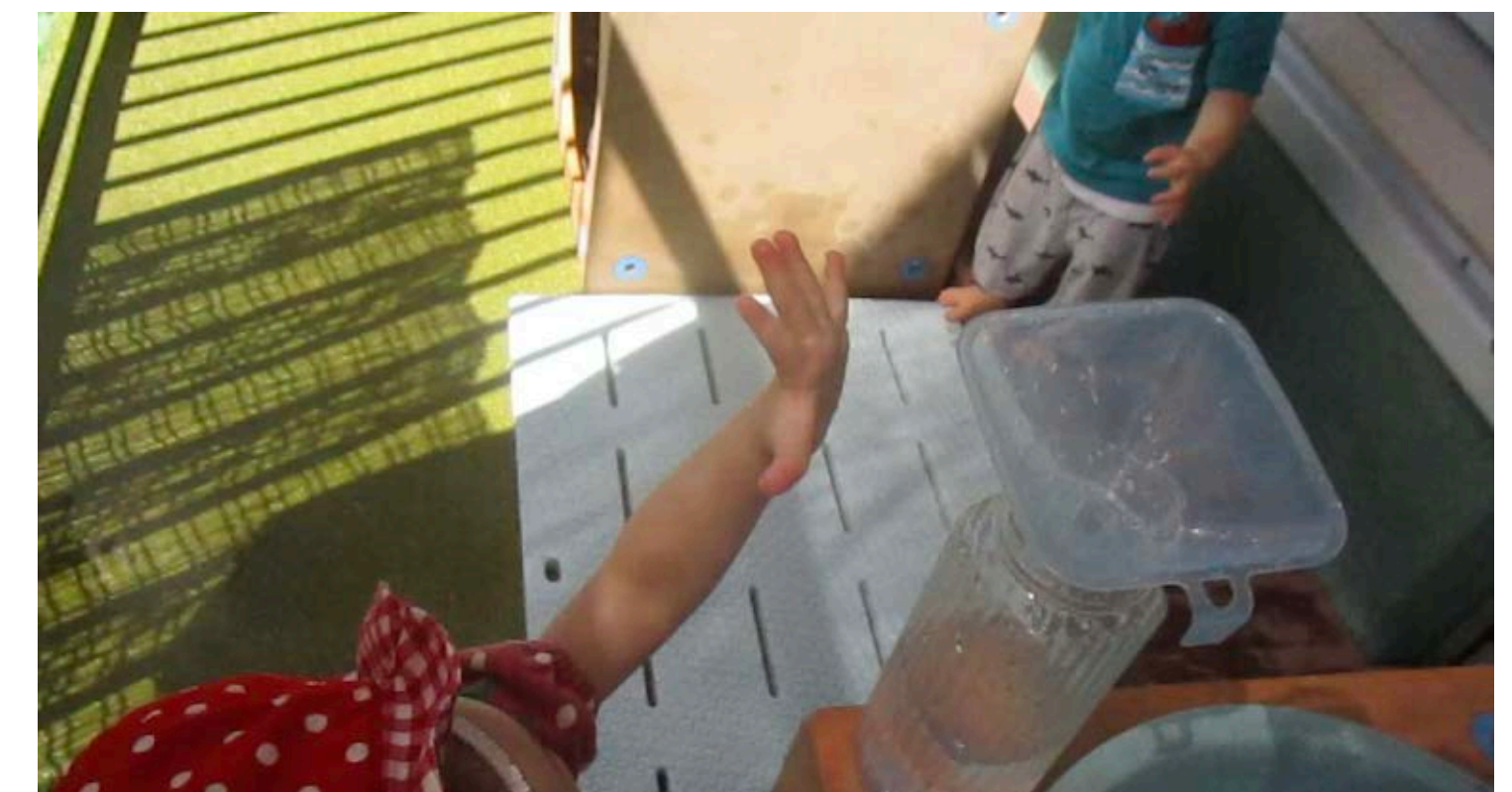
●子どもの姿

漏斗を使って水を掬おうとする。

上手いかず、ピッチャーを使って漏斗に水を注ごうとするが、ピッチャーが重く、上手く注げない。ピッチャーに入った水を地面に流していた。

次に、水鉄砲の玩具を使って水を入れてみる。ところが、水が流れていってしまう。保育者が漏斗を使って容器に水を注ぐと、それをじーっと見つめた後、漏斗を手にする。

興味は漏斗ではなくピッチャーの方へ移り、ピッチャーからピッチャーへと水を移し替えて遊んでいた。



水を注ぐ 2

●保育者の気づき

- ・はじめは漏斗に穴が空いていることに気が付いていないのか、水が流れていってしまうことを不思議そうにしていたが、保育者の姿を見て漏斗の使い方を知り、漏斗に水を注いでも、水が貯まらないことに気が付いたようだった。
- ・ピッチャーは子どもたちには大きく、水がたくさん入っているとうまく持つことができなかった。しかし、水遊びの回数を重ねていくことで、水をたくさん入れるのではなく、少ない量を掬うようになり、水の重さの違いを感じているのかもしれないと思った。また、それがわかって水を地面に流しているようだと感じた。

水を掴む

水を掴む

2024/8/28,9/2

●子どもの姿

テーマを水に決めたきっかけでもある「水を掴む」という動きは、この時期になってもよく見られる。

保育者がタッパーに入った水を高いところから流すと、その水を掴もうとしたり、上を見上げ水の流れてくる場所を観察していた。

ビニールプールでは、細く飛び出す水に手を伸ばし指先で掴もうとしたり、両手を広げたり揺らしながら、水を触っていた。

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、バケツ、ジョウロ、チェーン、ピッチャー、ペットボトル、水車の玩具、漏斗、ペットボトル、タッパー、ビニールプール



水を掴む

2024/9/4

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、バケツ、ジョウロ、チェーン、ピッチャー、ペットボトル、水車の玩具、漏斗、ペットボトル、タッパー、ビニールプール

●子どもの姿

ビニールプールに穴が開き、水が勢いよく噴き出していた。

じっと手元を観察しながら、指先でゆっくり掴むように触れたり、手を速く動かして触れたりと、動きを変えてみたりする。



水を掴む

●保育者の気づき

- ・ 水が線状になっていると、子どもたちは水を掴もうとすることが多かった。
- ・ 掴めないとわかっていても、手に当たる水の感覚が面白いのか。手元をじーっと見つめながら水の動きを観察しているように見えた。水が手に当たることで生まれる不規則な動きに興味を持っているのかもしれないと感じた。

水に浮く、水を貯める

水に浮く

2024/9/30

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台、ボール

●子どもの姿

水の入ったタライにボールを浮かべると、触ってみる子どもたち。

ボールはゆらゆら揺れて手から離れていってしまうが、それが面白いのか何度も触ってみる。



水を貯める

2024/9/30

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台

タライを水道の下に設置し、水が貯まっていく様子を観察できるようにした。

●子どもの姿

タライに水が当たる音や、「ジョボジョボ」と注がれていく水の音に気がつき、子どもたちが近くにやってきた。

上から細く注がれてくる水を指先で掴もうとしたり、バシャバシャと水を触る。手のひらを上に向けて、注がれてくる水を受け止めるようにして触っている子どももいた。



水を貯める

2024/9/30

●子どもの姿

蛇口の水の量を増やしてみると、指を出して手に水を当ててみる。

タライにも水がたくさん貯まってきて、バシャバシャと手を動かすと大きな水飛沫が上がる。

水飛沫が顔にかかり、嫌そうな表情の子どももいれば、それを面白がっている子どももいる。



水を貯める、水に浮く

2024/9/30

●子どもの姿

タライの水はどんどん溜まり、先ほどまでと同じように手を動かすとすぐに溢れてしまう。

初めはそのことに気がついていないようだったが、タライから水が溢れ、服が濡れると、驚いたように服に目を向ける。

そこへ、先ほどのボールを持った子どもがやってきた。

ボールを水に押し込むが、ボールは跳ね返ってくる。



水を貯める、水に浮く

2024/9/30

●子どもの姿

ボールに注がれてくる水を当ててみる。ボールに当たって跳ね返る水を触ろうとする子どももいる。何度も繰り返し、ボールを水に当てている。

タライの水をバシャバシャと揺らすと、それに伴うようにボールも揺れる。途中でそのことに気がつき、ボールをじっと見つめる。



水を貯める

2024/10/15

●準備した物、環境の設定

タライ、タライ台

水が貯まる様子が見えるよう、蛇口の近くにタライを設置し、水を徐々に注いだ。

●子どもの姿

別日にもタライに水を貯める活動を行ってみると、前は参加していなかった低月齢の子どもが近くにやってきた。

タライに貯まっていく水に手を伸ばすが、背が届かず指先しか触れられない。

注がれてくる水を掴もうとする子どももいる。



水を貯める

2024/10/15

●子どもの姿

だんだんと水位が上がり、水に手が届くようになる。

他の子どもたちも集まってきて、水飛沫が上がると、面白がって笑い声を上げる。

注がれてくる水を掴もうとしたり、手のひらで水を掬うようにして水を触り、顔を濡らしていた。



水を貯める、水に浮く

●保育者の気づき

- ・ ボールが水に浮かぶことで、普段とは違った動きをしていることに気が付き、その面白さを感じているようだった。
- ・ 水を溜めている際には、その音にすぐに気がついて、近くに集まってくる子どもたちの反応の速さに感心させられた。
- ・ 水圧を変えることで、手に当たる感覚の違いにも気がついているように感じた。
- ・ 初めは水が貯まっていくことに気がついていない様子だったが、水が溢れたことでそのことに気がついた様子の子どももいた。

自然の中の水 「雨」

自然の中の水「雨」

2024/9/19

●子どもの姿

午睡明け、突然に降り出した大雨。保育者がカーテンを開けると、音に気がついて子どもたちが集まってきた。

窓の近くに行ってみる子どももいれば、少し離れたところからじっと観察している子どももいる。

何度も指差して、保育者に外の様子を伝えようとしたり、ジャンプをしてはしゃぐ子どももいる一方で、怖がって保育者に抱っこを求める子どももいる。

●準備した物、環境の設定

子どもたちが雨に気づき、興味を持って観察できるように、カーテンを開けた。



自然の中の水 「雨」

●保育者の気づき

- ・ 何度も繰り返し窓の近くに行って、雨の様子を観察していた。また、雨の音を感じているようだった。
- ・ 普段、水遊びで触れている水と、雨の水が、同じ「水」であることに気がついている子どもはいるのか？

砂場遊びで水

大きな水溜まり

2024/11/29

●子どもの姿

園庭で遊んでいると、幼児クラスの子どもたちが作った大きな落とし穴を見つけた子どもたち。

保育者が穴に水を注いでみると、大きな水溜まりができた。そこへ砂を入れると「ぽちゃん」と音がし、それが面白かったのか、真似し始める。

水はだんだんと砂に染み込んで少なくなっていく、砂を入れていくうちになくなってしまった。

●準備した物、環境の設定

スコップ(大)、スコップ(小)、ジョウロ、ヤカン、ペットボトル、お椀、コップ、お皿



小さな水溜まり

2024/12/18

●子どもの姿

「大きな水溜まり」での姿を踏まえ、今度は小さな穴を掘ってそこへ水を入れてみた。

すると、前は参加していなかった低月齢の子どもが2人近くにやってきた。

スコップや型抜きを使って水を掬おうとしたり、手を入れて触ってみる。また、掬った水を砂の上に繰り返し流していた。

●準備した物、環境の設定

スコップ(大)、スコップ(小)、ジョウロ、ヤカン、ペットボトル、お椀、コップ、お皿



小さな水溜まり

2024/12/18

●子どもの姿

水が砂に染み込んでなくなる様子をじっと見つめる。

保育者が再び水を注ぐと、水に手を入れたり、手を上下左右に動かしたり、泥を掴んだりして感覚を楽しんでいる様子。「パシャパシャ」と音が鳴ると、笑って保育者の方を見上げていた。

もう1人の子どもは、水の入ったヤカンに手を伸ばす。保育者がヤカンを手渡すと、ヤカンを逆さにして水を砂の上に流していた。



大きな水溜まり、小さな水溜まり

●保育者の気づき

- ・ 小さな水溜まりにすることで、大きな水溜まりのときには触れられなかった水に触れることができた。
- ・ 大きい水溜まりは高月齢の興味を引いたが、スコップを扱うのが難しく、歩行も安定していない低月齢の子どもたちは、小さい水溜まりの方が探求しやすい様子だった。
- ・ 繰り返し砂に水を流す中で、砂に染み込んでなくなる水を観察しているようだった。
- ・ 砂に水が加わったことで生じる感触の違いに気がつき、その面白さを感じているようだった。

水に沈んでいく砂

2025/1/8

●子どもの姿

砂場遊びにも慣れてきた子どもたち。保育者がヤカンに水を汲み持ってきて「お水入れていい？」と聞くと、頷く。

保育者が容器に水を注ぐと、そこへパラパラと砂を入れたり、砂の塊を指さきで水に押し込む2人。砂が水に沈み見えなくなると、「ないねえ。」と言って、繰り返し砂を入れていく。

また、容器に入った泥をスコップで掬い、別の容器に入れたり、さらに水を注いだりする。

●準備した物、環境の設定

スコップ(大)、スコップ(小)、ジョウロ、ヤカン、ペットボトル、お椀、コップ、お皿



水に沈んでいく砂

●保育者の気づき

- ・ 水の中に砂を入れ、見えなくなったのを「砂がなくなった」と考える子どもの発想に感心し、驚かされた。
- ・ 大きな水溜まり、小さな水溜まりでの活動の際は、沈んでいく砂にまで目線が届かない子どもが多かったが、小さい容器の中で行うことで、水に入った砂がどのようなのかを観察しやすかったのだと感じた。
- ・ 高月齢の子どもたちは、回数を重ねる中で自分でヤカンに手を伸ばして水を注いだり、容器を持って水道に行き、水を汲んでくるなど、水を使った砂場遊びの面白さに気がつき、自ら遊びを広げようとする姿が増えていった。

雪に触れる

雪に触れる

2025/3/5

●準備した物、環境の設定

スコップ、スプーン、タライ、ビニールシート、
タオル、コップ、お皿、ボウル、お玉、

はじめは雪そのものの面白さを感じられるよう、
道具は出さず、後半に道具を出すようにした。

●子どもの姿

雪を笑顔で触れる子どもが多い一方で、冷たさから
か、雪を嫌がり、遠くから眺めていたり、保育者が
雪を差し出しても首を振る子どももいた。

手のひらで握るように触ったり、ちょんちょんと慎
重に触る子どももいた。



雪に触れる

2025/3/5

●子どもの姿

道具を出すと、それぞれ道具を手に取り、スプーンやスコップで雪を掬ったり、コップに入れたりしていた。

コップに雪を入れて、ままごとコーナーに持っていく子どももいた。

後半になり雪が溶けてくると、そのことに気がつき、「水！」と言って水だけをお玉で掬ってコップに入れ、その水を床に流して遊ぶ子どももいた。



雪に触れる

●保育者の気づき

- ・ 雪が溶けると水になる、というのは0歳児の子どもたちには難しいかと思ったが、それに気がついて面白がる子どもがいて驚いた。
- ・ 後日、その子どもがお風呂に氷を入れて遊んでいたところ、溶けた氷を見て「氷、なくなっちゃった。」と大泣きしたという話が保護者からあり、雪遊びの経験が繋がっているように感じた。
- ・ 雪を入れたコップをままごとコーナーに持っていく姿からは、水と雪の関係性は繋がっていませんとも、それを水に見立てて遊んでいるのだと感じた。
- ・ 服についた雪が溶けたことで「濡れちゃった！」と着替えたがる子どももいて、そうした経験も雪が溶けると水になるということを知る過程の一つなのかもしれないと思った。

水への関わり方の変化

水への関わり方の変化

2025/1/14

●子どもの姿

春頃までは水道の水を見るたびに水を掴もうとしていた子どもたちだったが、だんだんとその姿は減ってきた。

高月齢は、水を前にすると手を洗うように擦り合わせるようになってきた。



水への関わり方の変化

2025/1/20

●子どもの姿

水道での水遊び。ここでも以前まで水を掴むことに夢中になっていた高月齢の子どもたちは、水を掴む動作をしなくなっていた。

その代わりに、容器に水を入れたり、おたまを使って水を掬うことに夢中になっていた。

一方で、低月齢の子どもたちは、水を掴むことに夢中になっていた。



水への関わり方の変化

2025/2/17

●子どもの姿

また、大きな水溜まりに出会った子どもたち。ほとんどの子どもたちが、水に濡れないように水溜まりの端を慎重に歩いていた。

そして、スコップやお玉を使って水を掬ったり、お皿を水溜まりに浮かべたりしていた。

一方で、真っ先に靴のまま水溜まりに入っていく子どももいた。



水への関わり方の変化

●保育者の気づき

- ・ 半年間、遊びや生活など、様々な場面で水と触れ合う中で、子どもたちの水への関わり方に変化が生まれていると感じた。
- ・ 高月齢の子どもたちは、「水を掴む」という探求から、別のものへ興味が移っていつているようだった。
- ・ 一方で、近くにいた1歳児クラスの子どもたちは複数の容器を使用して、水を移し替えたり、洗い物をするようにして遊んでいた。また、穴の空いた容器やザルなどを使っていて、0歳児クラスの高月齢の子どもたちより、さらに先を探求しているようだった。



振り返り、まとめ

- ・ 継続して子どもたちの水への関わりや遊びの様子を追っていく中で、子どもたちの姿の変化を感じることができ、とても興味深かった。日々、水との新たな出会いをしていく子どもたちと一緒に探究活動を行い、保育者自身も当たり前になっている水の面白さを再確認させられた。
- ・ 一方で、言葉での表現がほとんどない0歳児の子どもたちが、水をどのように捉えているのかを、その表情や行動から感じ取ることの難しさも感じた。雪や氷が溶けると水になることや、水に浮くもの、沈むものの違い、掴むことができず、形を変えていく水の面白さなど、0歳児の子どもたちがどれほど理解して楽しんでいるのかはわからないが、自然と水に手を伸ばし自ら関わっていく姿を見て、活動時だけでなく、日常の中で水に関わる全ての時間が、水の性質やその面白さ、不思議さに気がついていく過程の1つなのだと感じた。
- ・ この先、子どもたちの水への関わり方がどのように変化していくのか、どのような経験が子どもたちの水への認識を変えていくのかを、引き続き見守っていきたいと感じた。

天気と季節

幼児クラス 臼井 彩子

テーマとした理由や背景

- ・保育室に落ちていたすずらんテープを部屋の天井から吊るして雨にしてみたいという子どもの提案から、晴れや雨など気象に子どもが興味を持ち始めた。
- ・天気と自然物、季節と気温の関係など、自然や気象の面白さに気がつくなど、興味を広げながら探究を深めたいと考えた。

準備した素材や道具、環境の設定

- ・模造紙、花紙、折り紙、ダンボール等、天気の部屋を作るのに使用できそうな様々な素材を用意する。
- ・温度計、天気を記録する用紙を用意し子どもが自分たちで記録できるようにする。

活動スケジュール

- ・10月～3月

天気部屋を作ろう (10月中旬)

期待する経験

- ・ 様々な素材を用いて、自分のイメージしたものを形にしていく。
- ・ 子ども同士で気づきを共有したり、協力しながら取り組んでいく。



【子どもの様子】

・すずらんスズランテープを細かくすると、シトシトと降る雨。逆に細くしないと大雨や台風のようになることに気づき、子ども同士で工夫しながら取り組んでいた。

・雨が降ると、雷が鳴ることもあることに気がついた子どもが「作りたい。」と言って作り始めたが、なかなかイメージ通りにいかず、納得できない様子だったので、金色の折り紙、ダンボールやダンボールカッターなど、素材や道具を保育者と一緒に探し共に考えながら作り上げた。

・雨を好む動植物の存在に気がついた子どもが、カエルや亀を折り紙で作り始めた。他の活動で作った池を保育者が持ってくると作った動植物を貼っていた。

・「雨の日には、傘が必要だよね。」と、雨から日常に使う道具にイメージを膨らませ、作って雨の下を歩き面白がっていた。

【振り返り】

子ども

・雨から、動植物や日常の道具にまで発想を膨らませていた。

・雨がたくさん降る時期があることに気がつき、保育者が「梅雨だよ。」と教えると、「夏は晴れが多い。」「冬になると雪が降る。」など、季節によって天気も変わることに気がついていた。

保育者

・子どもが天気から四季について興味を持ちはじていたので、今後興味が広がるように環境を設定していく。

・子どもが意欲的に取り組めるように、天気に関する本を用意したり、製作に意欲的に取り組めるように様々な素材や道具を用意する必要があると感じたので、意識していく。

天気の子屋を作ろう2回目 (10月中旬～11月上旬)

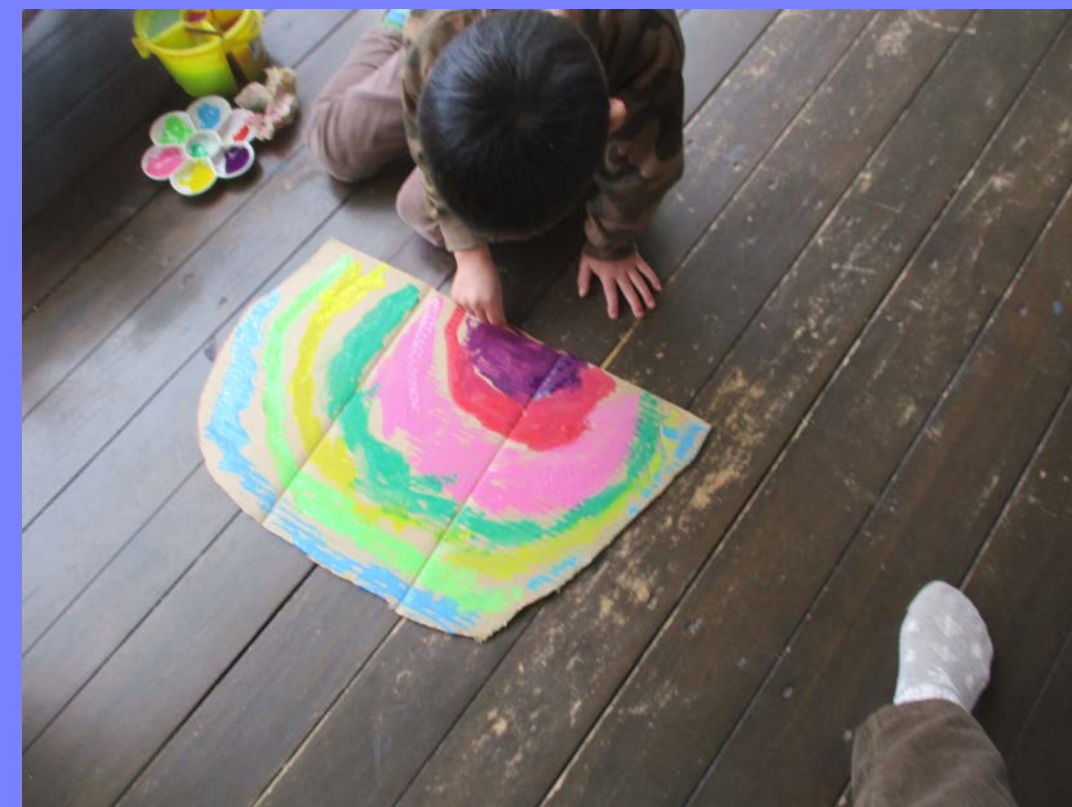
期待する経験

- ・ 晴れ以外の天気について考え、様々な素材を用いて自分のイメージしたものを形にしていく。
- ・ 天気と季節の関係に気がつき、子ども同士で共有したり、保育者に共感してもらう。

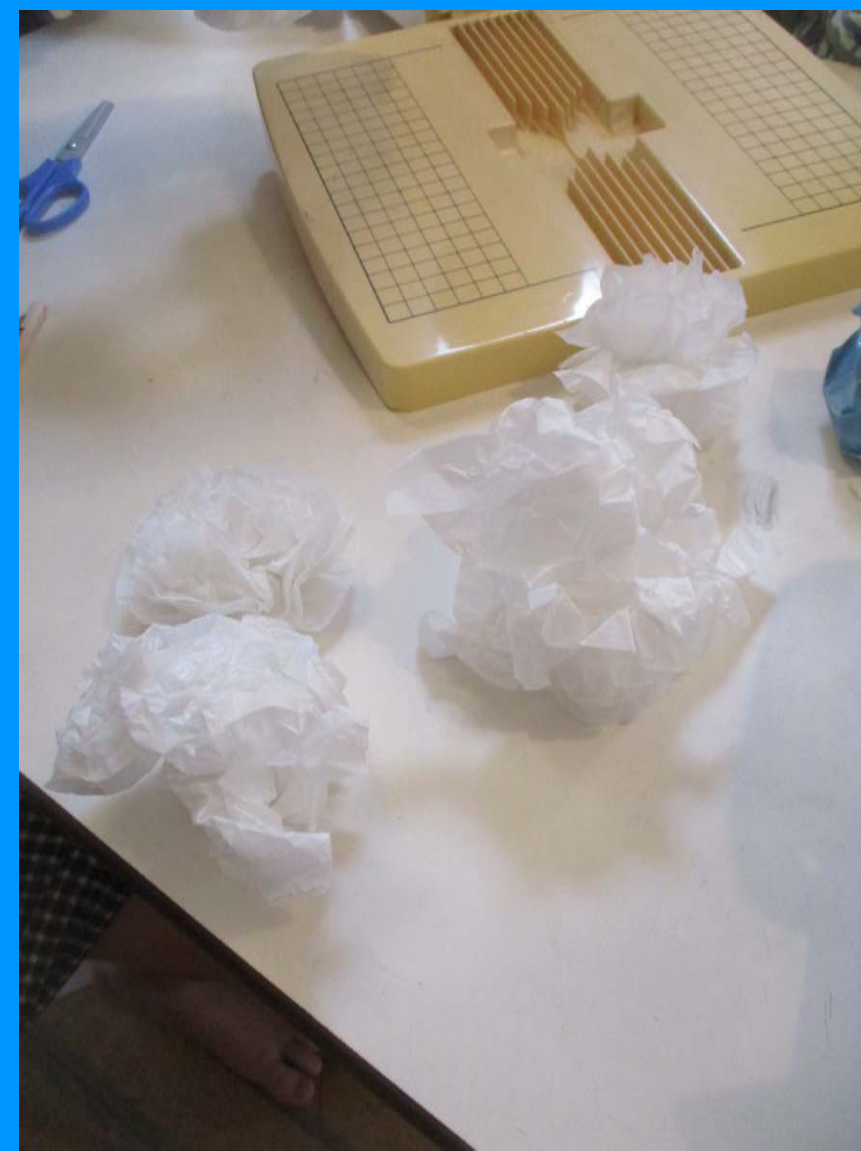
晴れの部屋



虹をかける



雪の部屋



【子どもの様子】

・晴れの部屋作りでは、どのように太陽を表現するかで悩み、紙に色鉛筆で描くなどしたがなかなか納得のいくものが出来上がらなかった。保育者が、太陽が出てくる紙芝居を読み聞かせすると、大きく作った方が太陽らしいと大きさにこだわり、丸い照明器具に気がついた子どもが利用することを思いつき、皆で協力して作り上げた。

・「晴れの部屋は春みたいにポカポカの部屋だから、お花を咲かせよう！」「雪の部屋は、寒いところが大好きなシマエナガを作りたい！シマエナガは北海道にしかいないんだよ。」「晴れの部屋と雨の部屋の間には、虹をかけよう！お天気雨の時に虹はよく出るんだよ。」と、それぞれが自分の知っている知識を友だちに伝えながら、取り組んでいた。

【振り返り】

子ども

・うまくいかない場面でも諦めずに、試行錯誤しながら他児と協力していた。

・虹を作っているときに、「虹はどうしてできるのか？」という疑問を持った。「お天気雨や、雨が上がってすぐに太陽が出ると虹も出る。」とある子どもが話すと、それを聞いた子どもが、「プールの時に先生がシャワーで水をバーってやるとそこに光が当たって虹が見えることがあった！」と言うと、「それと同じことが、きっと空でも起こっているんだ！」「絶対そうだ！」と言葉を交わしていた。

保育者

・うまくいかず子どもの手が止まってしまった時に、紙芝居を読んだり、一緒に考えるなど、ヒントを出したり提案することで子どもも諦めずに取り組むことができていた。

・疑問を持った時に、経験に基づいた推測をしている姿を見て、自分なりに考えることができていることに成長を感じた。

・園庭に目をやり、「今は秋だよね。秋の天気ってどんな感じかな？」と実際の今の天気に興味を持っていたので、次回は実際の天気に着目して活動を進める。

今の季節は？（11月上旬）

期待する経験

- ・ 天気、園庭の自然物、気温などから秋を感じていく。気がついたことを子ども同士で共有していく。



子どもの様子

- ・季節の部屋作りもひと段落した印象を受け、天気から季節に興味を持った子どもが探求を深める様子が見られた。
- ・残暑が厳しく暑い日が長かったが、やっと秋風を感じられるようになった。子どもも、日差しや木の葉が紅葉し始めたことから季節の移り変わりを感じていた。
- ・秋の次に訪れる冬に降る雪に期待し、「早く降って欲しいね。」「まだ、秋だからまだまだ降らないよ。」「どれだけ寒くなったら、雪って降るんだろう。」と雪が降る日を心待ちにしていた。

振り返り

子ども

- ・早く冬が来て欲しいと思っている子どもが、「夏の次に、すぐ冬が来てほしい。」と発言すると、「それだと秋が好きな動物や植物が困る。」「四季の順番はどんなに願っても、順番は変わらないと思う。」と返し、自然の摂理に気がついていた。
- ・夏野菜は夏、冬野菜は冬、秋には紅葉し、春には花が咲くなど、季節ごとに感じられる自然物の存在に対する発言もあった。

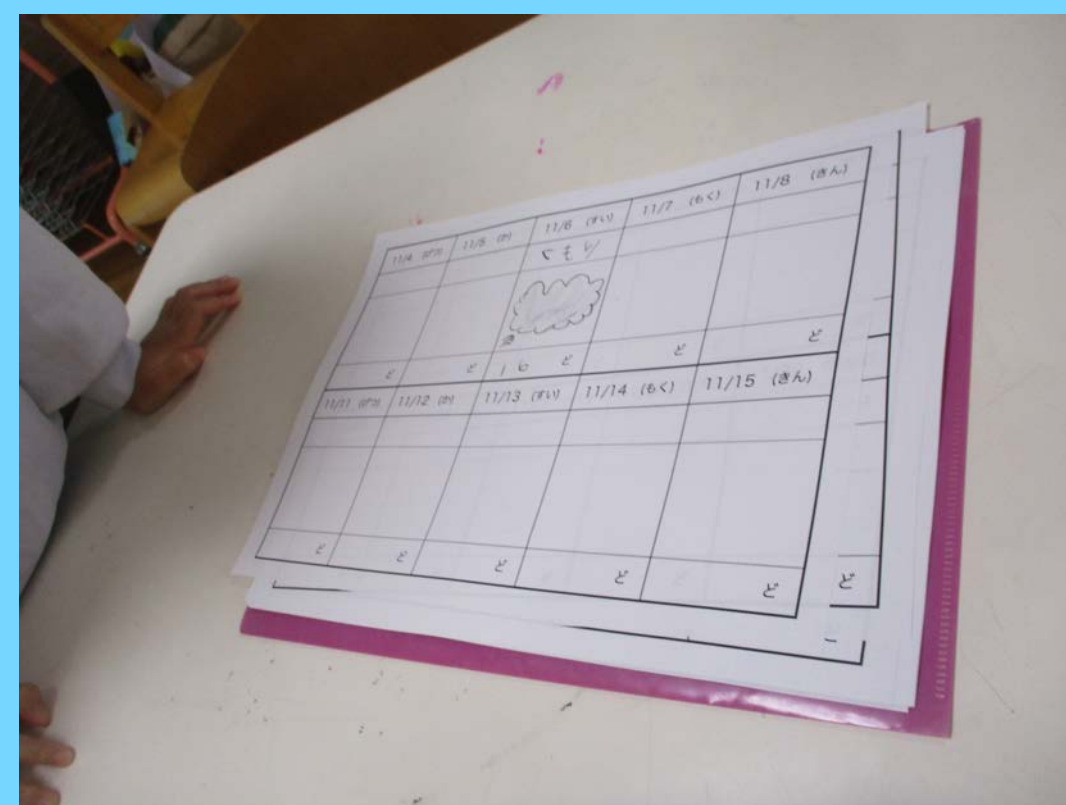
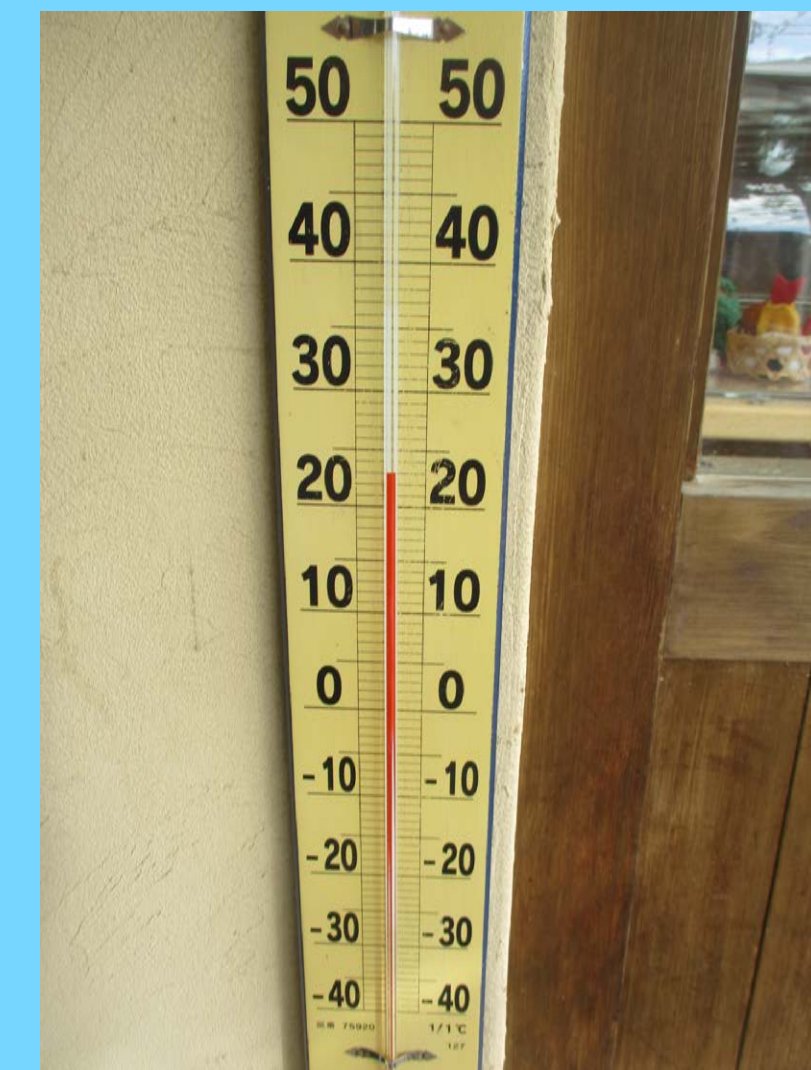
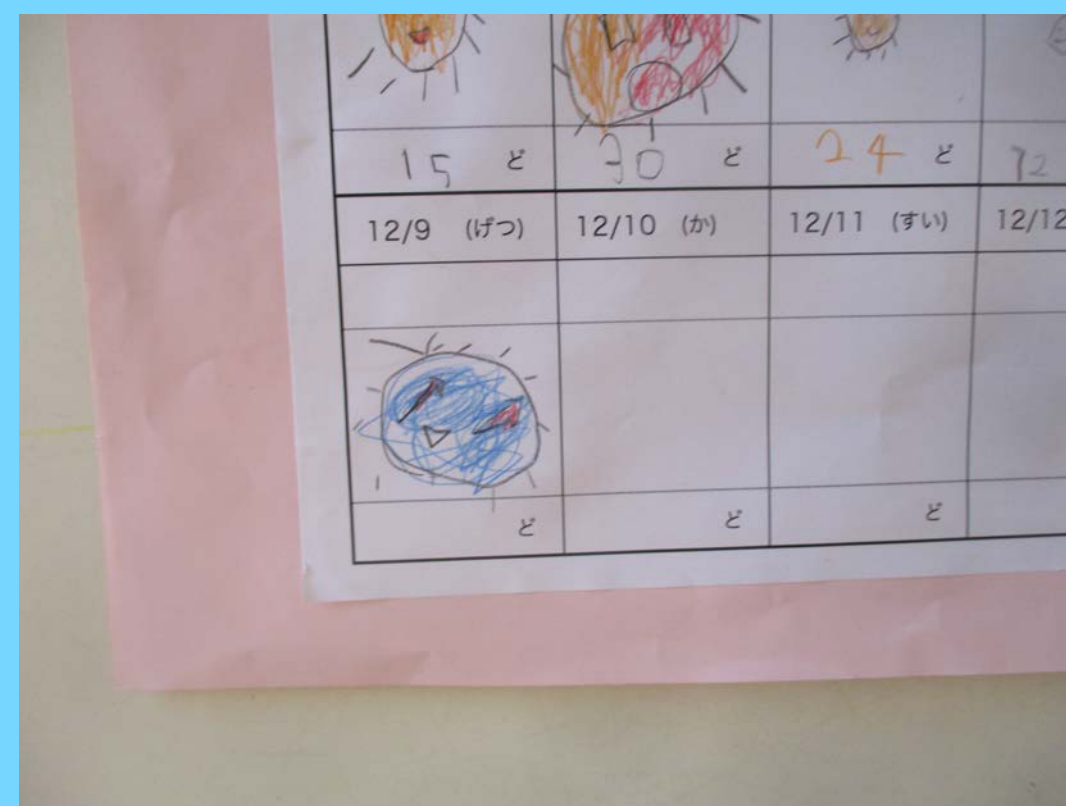
保育者

- ・「どのくらい寒くなったら冬を感じるのか。雪が降るのか。」と、子どもが疑問を持っていたので、温度計と用紙を用意し、気温と天気を記録することを提案した。

雪が待ち遠しい！気温を測ってみよう（11月下旬～3月中旬）

期待する経験

- ・気温と天気を記録することで、季節の移り変わりを可視化し、実感する。



子どもの様子

- ・気温と天気を紙に記録し、同じ気温でも晴れの日と曇りの日では体感に違いがあることに気がついていた。
- ・暖い日と寒い日が交互に訪れているが、だんだんと気温が低い日が続くようになり、「秋は終わりだね。」「もうすぐ冬が来るね。」と視覚からの情報と、実際に感じる寒さに季節の移り変わりを感じていた。

振り返り

子ども

- ・最初は意欲的だった子どもたちも、天気を絵と文字で記録することが少し億劫になり、「あ！今日確認するの忘れていた！」と記録をとることを忘れる日も出てきた。
- ・活動内容を家庭で話し、登園の際に保護者と温度計を確認したり、「今日は雪が降るかもしれないって！ママと天気予報見てきたよ！」と、保護者も一緒に活動に取り組んでくれるようになった。

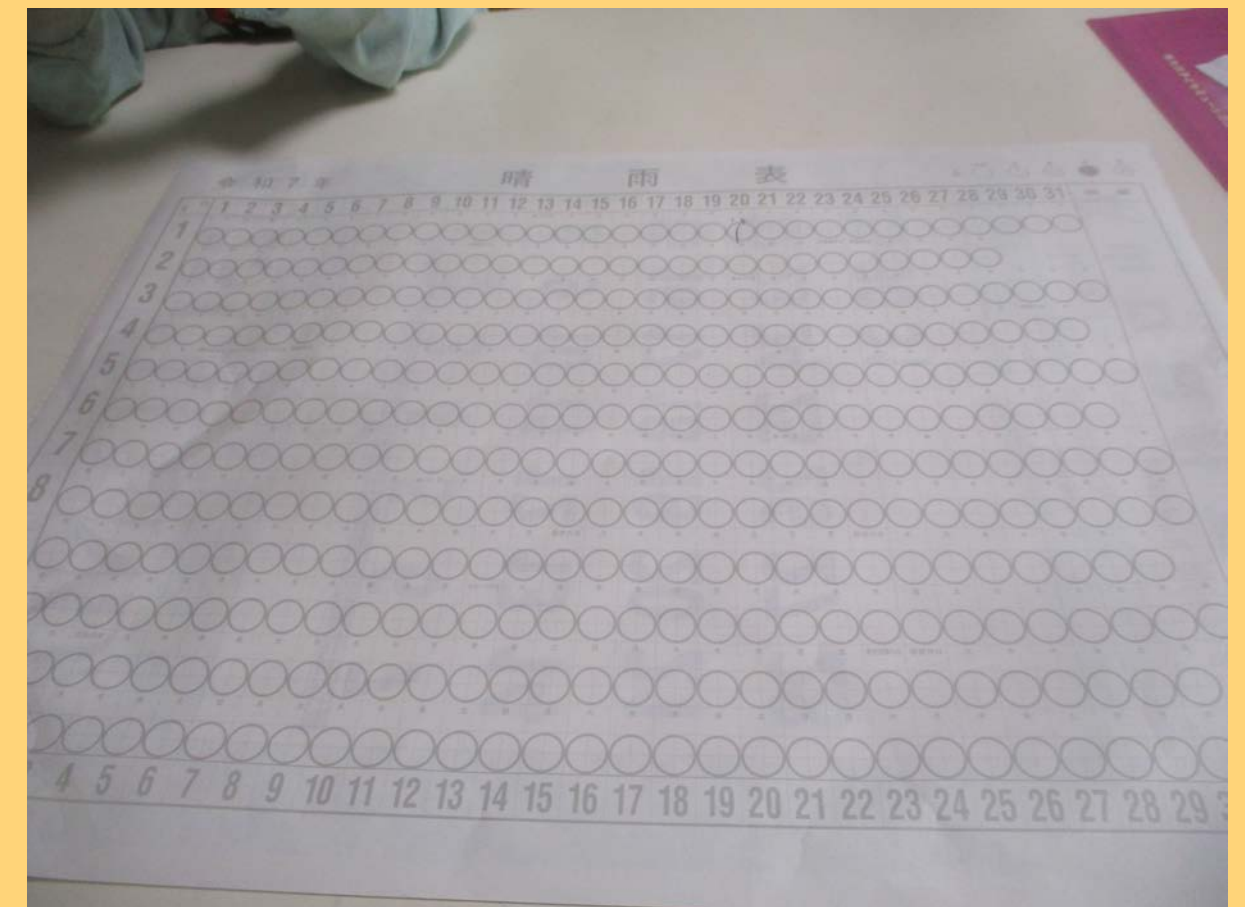
保育者

- ・温度計の見方がわからず保育者と一緒でないと気温がわからなかったり、記録する内容に時間を要したり、気温などに劇的な変化がないので、子どもの意欲が薄れてしまったように感じた。子どもたちが保育者の手を借りずに、自分たちで取り組めるように、温度計の見方を丁寧に教え、より簡潔に記録できる晴雨表を使ってみることにした。

記号は便利（3月）

期待する経験

- ・自分たちだけで記録できるようになる。
- ・天気記号を知り、記号の面白さや利便性を感じる。



子どもの様子

- ・晴雨表を導入したことで、子どもたちだけで記録することができるようになり、毎日確認していた。

- ・実際に雪が降った日は、「やったー、ついに雪が降ったー！！」と喜んでいた。その時の気温が6度だったのだが、前の週に雨だった日が4度だったことに気がつき、「雨の日の方が気温が低いよ。」「なんで？」と疑問を持っていた。保育者が、「気温を測る時間が違ったのかな？」と声を掛けると、「違ったかもしれない。」「同じ時間に測らないとダメなのかもしれない。」と声が上がり、「もしかしたら地面と空の気温も関係していて、それで雪と雨と決まるのかな。」と考えを伝える子どももいた。

振り返り

子ども

- ・初めて見る天気記号に興味を持ち、「すごく晴れの時は、雲もなーんにもないからただの丸なんだよ。」「雪のマーク見て！雪の結晶みたいになってる！かわいい。」と、記号の書き方の由来や意味を子ども同士で考えていた。

保育者

- ・天気と気温を記録することで、雨と雪の日の気温の違いに気がつきなぜだろうと感じていた。記録し可視化することで気がついた疑問だなと思った。

- ・晴雨表に載っていない雷や台風の記号もあるのかと子どもから問われたので、天気記号の一覧を次回は用意することにした。

たくさんの天気記号（3月）

期待する経験

- ・ 様々な天気記号を知り、興味を持つ。



天気記号					
天気記号	天気	解説	天気記号	天気	解説
☉	快晴	雲量 0~1 <small>すくはれ</small>	☁	にわか雨	対流性の雲から降る <small>はわかあめ</small>
☀	晴	雲量 2~8 <small>はれ</small>	☁	みぞれ	雨と雪が同時に降る <small>みぞれ</small>
☁	曇	雲量 9~10 <small>くもり</small>	☁	雪	層状の雲から降る <small>ゆき</small>
☁	煙霧	視程2km未満 <small>けむり つかいぼさ</small>	☁	雪強し	時間雨量3mm以上 <small>ゆきつよし</small>
☁	ちり煙霧	<small>ちり</small> や砂が浮遊 <small>きり</small>	☁	にわか雪	対流性の雲から降る <small>はわかゆき</small>
☁	砂じん	<small>ちり</small> や砂を吹き上げる	☁	あられ	氷の粒 直径約2~5mm
☁	地ふぶき	<small>つゆ</small> や雪を吹き上げる <small>ゆき</small>	☁	ひょう	氷の粒 直径約5~50mm
☁	霧	水平視程1km未満	☁	雷	雷鳴と雷光 <small>かみゆげ</small>
☁	霧雨	<small>きりふり</small> たいはみ <small>あめ</small> 厚い層雲から降る	☁	雷強し	強雷電 <small>かみなり</small>
☁	雨	<small>あめ</small> 層状の雲から降る	☁	天気不明	<small>あめ</small> 天気不明
☁	雨強し	<small>あめ</small> 時間雨量15mm以上			



子どもの様子

・初めて見る記号に興味を持っていた。雨の記号の下にカタカナの「ツ」と書かれていることに気がついた子どもに、「これは、雨強しって読むんだよ。強い雨ですよっていう意味。」と伝えと、「じゃあ、このマークは雪でしょ？そこにツだから、雪強しだ！」「読めた、読めた！」「これはこれは？」「これは、にわか雨の二だよ。にわか雨ですよってこと。」「そうすると、これは雪に二だから、にわか雪ってことだ！」「このみぞれの記号は、半分雨で半分雪になってるからすごくわかりやすいね。」と、自分たちで記号を読み、意味がわかることが面白くて夢中になっていた。

振り返り

子ども

・ある子どもが、「すごく晴れですよの日には、丸の中に太陽を描いた方がいいと思うし、雪の時は雪だるまを描いた方がかわいいと思う。」と言うと、「それ無理だよー。今まで天気を絵で描いてて本当に大変だったんだから。僕それだったらもうできない。」「それに雪だるまを描くのが難しい人もいると思うよ。」と話していた。保育者が、「記号はみんなが書くことができ、みんなが意味がわかることが大切なんだね。」と話すと、子どもたちも納得したような表情で頷いていた。

保育者

・天気を絵と文字で記録していた時期に、子どもの興味が薄れ始めていることに気がつき、他の保育者に相談していたところ、一月に新しいカレンダーを準備していた時に晴雨表が付属されていることに気がついた保育者が、「これ使えるのでは。」と持ってきてくれた。そこから子どもの興味は記号までに広がり探求が深まっていったので、自分だけで考えるのではなく、他の保育者に自分の活動を語り相談に乗ってもらうことの大切さを感じた。

まとめ

天気の家を作ることから始まった活動。様々な素材や道具を使って、イメージしたものを形にしようと友達と協力しながら取り組んでいた。

そこから、季節と天気の関係へと興味が広がり、各季節の自然物にも着目する姿が見られた。こども一人一人が、気がついたことや疑問に感じたことを、友達と共有したり、保育者に共感してもらいながら、自分たちなりに考え探求を進めていた。

さらに、天気の記録を取る中で記号の存在を知り、記号の持つ意味や利便性を自分たちの経験をもとに実感していた。

活動の中で子どもの興味や意欲が薄れたりした時に、保育者が新しい方法を提案したり、新たな興味や疑問が湧くように、軌道を修正することの大切さも感じた。



自然物（植物）

あかぐみ（4.5歳児）

佐藤 幸恵

テーマとした理由や背景

- ・散歩先で多くの草花を見つけ匂いや感触、色を観察したり、草花を使い色水を作ったりすると草花に興味を持ち始めた。
- ・花を育ててみたいと声が上がリ種から花を栽培してみようとなった。
- ・栽培を通して子どもたちと草花を使っでの遊びを探究したいと考えた。

活動 春の散歩

(4月中旬)

期待する経験 自然物に気づき興味を持つ

- ・散歩中に春の花や葉っぱを見つけ、匂いや感触を感じる。
- ・摘んだ草花を友だちと観察する。



子どもの様子や言葉

- ・ 春の花や葉っぱを見つけて集める。
- ・ 「いい匂いがする！」 「なんかネバネバしてるよ」
- ・ 花や葉っぱの匂いや感触を感じる。
- ・ 「花や葉っぱで色水遊びしてみたい」
「どんな色になるのかな？」
- ・ 「あかぐみでもいろんな色の花をやってみたい。」
「びわの種や朝顔の種があるよね。」



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・散歩中に草花に興味を持つ子が多くいた。
- ・園庭遊びで色水遊びを見つけた草花でやってみたいと声が聞こえてきたので、道具を準備し実践してみようと思った。
- ・花に興味を持っているので、花を種から栽培してみたい。

クラスとして

- ・草花に興味を持っているので、クラスでも花の栽培などしてみたい。
- ・摘んだ草花で色水遊びをしどんな色になるのか、子どもたちと遊びながら探求していく。

活動 草花を使って色水遊び (4月初旬)

期待する経験 草花ってどんな色？

- ・ 前回摘んだ草花を使い
色水遊びを行う。

- ・ すり鉢、水、小さなペットボトル。

- ・ 草花をすり鉢に入れ、水を足し色を抽出していく。



子どもの様子や言葉

- ・「葉っぱが大きいから千切って入れよう」
- ・「グリグリって棒でするんだよね。」
- ・「なんか匂いがする。」
- ・「見て！黄色になった！」
- ・「いろいろ混ぜたら変な色になったよ。」
- ・「葉っぱだけだと、緑。混ぜると変な色！面白い！」
- ・「あかぐみでお花を育てて、色水遊びをしたい」



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・子どもたちが好きな草花を選び、「たんぽぽは黄色だろうな。」
「葉っぱは黄色かな？」と予想しながら、色水を作っていた。
- ・友だちとのやりとりも増えてきた。
「どの花がいい？取れる？」など、ちょっとしたことの積み重ねが次へと繋がっていくのだろう。

クラスとして

- ・道具の使い方や、どうやったら草花から色を抽出できるのか、試行錯誤していた。
- ・散歩で摘んだ草花を使って色水遊びを行ったことで、クラスでも花を育てて、その花で色水遊びをしたいと子どもたちの気持ちが強くなった。

活動 花の種を育てる (5月初旬)

期待する経験 花の種ってどうやって大きくなるの？

- ・ 前回の色水遊びを経験し、自分たちで花を育ててみたい。
- ・ 昨年度できた朝顔の種を植えて、朝顔を育ててみよう。
- ・ 湿ったキッチンペーパーとジップロックを使い、花の種が発芽できるようにする。
- ・ 紙芝居を通して、朝顔の育ちを知る。
- ・ 発芽した種を土に植える。



子どもの様子や言葉

- ・「やった！朝顔の花咲くかな？」
- ・「〇〇ちゃん（卒園児）が育てた朝顔の種だ！」
- ・「朝顔アパートの紙芝居みたいに種から赤ちゃんが出てきた！」
- ・「ねぼすけの種もいるんだね。この種はまだ出ないからねぼすけかも。」
- ・「赤ちゃんが出てきたから、アパート作ろう。」



振り返り（気づき、省察、考察）



自身として

- ・昨年度の朝顔の種を引き継ぐことで、卒園した子や前担任への思いを知る。花が咲いたら、また次へと繋がる。
- ・紙芝居から朝顔の花が咲くまでの成長を知った。実際に種の育ちを見て、紙芝居と重ねていた。

クラスとして

- ・自分たちで種を布団に寝かせ芽が出てくる様子を観察。芽が出てきたら「赤ちゃんが出てきたから土の布団に引っ越そう。」と発芽した種を土に植えた。
- ・花の成長のドキュメンテーションを子どもたちと作成する。

活動 毎日の水やり

(5月中旬～9月)

期待する経験 水やりから花の成長を観察する

- ・ 前回の芽が成長していく。
- ・ 毎日の水やりから、夏野菜や花の成長を観察。発見もある。



- ・ 夏野菜の畑の中に朝顔の双葉も発見。
朝顔だけの畑を作る。



- ・ 夏野菜の水やり中、乳児さんが畑とわからず、入っていく姿を発見。



境目がわからないから、柵を作ろう！

子どもの様子や言葉

- ・「あー赤ちゃんが入っちゃう！畑がどこかわからないよね。」「木の棒を見つけて、柵を作ろう！」
- ・「棒と紐をつけて柵になるね。」
- ・「朝顔も野菜畑に咲いてる！朝顔のアパートになる畑を作ろう。引っ越した。」
- ・「毎日水やりをしたら、いつか花が咲くかな？」
- ・「葉っぱがぐんぐん伸びてきた！」



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・ 毎日の水やりの中で花だけでなく、夏野菜の畑にも興味を持ち、乳児の行動も観察している姿があった。
- ・ 柵作りでは、子ども同士で協力していく姿があった。

クラスとして

- ・ 葉っぱが増え、ツルが伸びていく成長を観察。発見をクラスの時間に発表する姿があった。

活動 朝顔の花と種の収穫

(8月中旬～9月下旬)

期待する経験 花が咲いた！種は宝物だね！

- ・朝顔が成長し花が咲く。

花が咲き終わると種ができる。

- ・花は摘んで冷凍し、咲き終わった頃
たくさんの花で色水遊びをする。

- ・茶色く乾いた種を収穫。殻を剥き、
種だけを収穫する。



子どもの様子や言葉

- ・「赤紫と青色の朝顔が咲いたね。綺麗！
冷凍したら色水ができるの？」
- ・「いっぱい冷凍して色水で遊ぼう！」
- ・「朝顔の種が茶色になったら、採っていい
種だよね。」 「花が咲き終わったら、緑の種に
なって、茶色くなるんだね。」
- ・「種をまた植えたら朝顔が咲くんだね！
すごい！じゃあ種は宝物だね。その種を売って
大金持ちになる！」
- ・「外の日の宝箱に種を入れようよ！」



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・たくさんの花が咲き、咲き終わるまで時間がかかるので、冷凍し花を保存することにした。花を摘み冷凍していく花が増えていくことを喜ぶ子どもの姿があった。
- ・朝顔の種を宝物と例える姿に子どもの思いが伝わった。

クラスとして

- ・種から育てた朝顔の花が咲き、種ができる成長を日々観察していた。
- ・クラスの枠を越えて、子どもたちと花の成長を発見する姿があった。

活動 朝顔の花で色水遊び (9月～2月)

期待する経験 朝顔の花で色水遊び。色が変わる！

- ・ 冷凍朝顔の花を使って色水を作る。
- ・ ネット、ジップロック、クリアカップ、スプーンを使い、色水遊びをする。
- ・ 花により、色が違う。また、重曹とクエン酸を加え色の変化を発見する。
- ・ 和紙を使い、染め紙を作る。



子どもの様子や言葉

- ・「やったー！冷凍の朝顔いっぱいできたね。」
「なんかいい匂い！」「冷たいね。」「モミモミ
すると、色が出てきた！」
- ・「わあー！朝顔ってこんなに綺麗な色なんだね！」
- ・「魔法の粉を2つ用意したの。入れると、
どうなるかな？」保育者の問いに、
「もしかして、色が変わるの？」「やってみよう！」
「えー！すごい！！泡が〜！」



子どもの様子や言葉

- ・ 朝顔の色水を使って染め紙を作る。
 - ・ 「こいっちゃんと染め紙やったよね。
- 朝顔の色水ではどんな色になるんだろう？」



- ・ 「朝顔の色になった！」
 - ・ 「ここの窓に飾ろうよ！」
 - ・ 「忘れないように書いておきたい。
- どうやって作ったっけ？」



- ・ 「この染め紙で宝物作ろうか？」
- 保育者の提案に 「やったー！宝物になる！」



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・春散歩から話していたことが実現する。子どもの呟きから実現するまで、子どもと一緒に試行錯誤しながら活動していた。



クラスとして

- ・色水遊びから、造形活動でやった染め紙遊び、そして宝物にしたいと、外の日で染め紙を使いマスターカードを作った。中の日では、マジックをしたいと朝顔の色水マジックを行った。子どもたちと一緒に活動を繋げていく面白さを感じた。

活動 冬の種まきから花畑へ (12月中旬～1月)

期待する経験 冬には花は咲かないの？

- ・ 朝顔の種を冬に植えたら、卒園までに花が咲くかな。
- ・ 卒園までに花畑を作りたい。
- ・ また花を育てたい。
- ・ 朝顔の種を植えて、枯葉の葉っぱ布団を作ってみたが、発芽しなかった。
- ・ 冬に強い花の苗と球根と種を用意。
- ・ 冬野菜が終わった畑を花畑に。



子どもの様子や言葉

- ・「花畑を作ろう！」 「元気な花が咲くためには栄養が必要なんだね。」 「耕すっていうの？」
 - 「やってみたい！」 「寒いけど、花が咲くかな？」
 - 「ここが、パンジーのお家。ここがチューリップ。ここがミックスフラワーの種のお家。」
 - 「卒園するまでに咲くといいな。」
 - 「お花好きだから、楽しい。」
 - 「みんなの花畑だね。」
- クラスも学年も越えて、花畑作りが始まった。



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・ 1人の子の眩きから始まった花畑。
寒い冬には朝顔の発芽は難しいが、
やってみてからこそ、次へのヒントが
見えてくると思った。

クラスとして

- ・ クラスや学年の枠を越えて、探究心を繋げていく面白さもある。

活動 水やりから虫探し、開花へ (3月中旬～下旬)

期待する経験 水やりから新たな発見が！

- ・ 花畑の水やりで、
花の成長を観察。
- ・ 花の成長を観察している
中で、ダンゴムシ探しに。
- ・ 冬でも花が咲いた。



子どもの様子や言葉

・「花畑にはダンゴムシがいるんだよ。」

「水やり終わったら探そうね。」 「ここら辺に
いるよ。」と4歳児と2歳児の子たちが

探していると、5歳児の子が「ダンゴムシなら、
お花のプランターの下にいるよ。動かしてごらん。」

「わあ！ いっぱいいいる！」と喜ぶと、「せいび
ではここにダンゴムシがいるの有名だよ。」

異年齢児の関わりの中で伝わっていく。

・「冬に花が咲いた！」 「卒園前に咲いた！」

「私たちって、お花を育てる天才だよ！」



振り返り（気づき、省察、考察）

自身として

- ・子どもたちと一から作っていく
活動の面白さが自然物からも育まれていく。
- ・花の成長過程を通しての子どもたちの
発見や疑問などを探究し活動へと
繋げていった。
- ・育てた花が引き続き、遊びの
材料として活かされていく。
- ・朝顔の種も次の代へと
繋がっていく。



クラスとして

- ・年間を通して植物の栽培を活動へ
取り組んでいったので、植物への興味関心を
深め、種を見つけ
ると、どうやって栽培しようと考え
子どもたちと試行錯誤し、探求していった。

